

「そだねー」の力

中津市長 奥塚 正典

ピョンチャンオリンピックで激しい勝負の中にほんのりとあたたかい場面に出会いました。カーリングは選手の声がマイクが拾いプレー中の会話が聞こえます。「そだねー」と北海道LS北見の選手たちが何ともほのぼのとした地元の口調で作戦を話すのです。中津弁にすると「そうじゃねー」でしょうか。

そう言えば中津の言葉もけっこう面白いのです。ほんの少しの発音の変化や一音によってソフトで微妙な人間関係がわかります。例えば、「え」と「や」。「これでいいんかえ？」と「これでいいんかや？」は質問の表現ですが、会話で両者の上下関係がわかります。前者は話者が年下、後者は年上です。それぞれの答えは逆に「これでいいんじや」「これでいいんでえ」となります。たった一つの「え」や「や」で尊敬の関係がでてくるのです。何とも簡潔かつ豊かな言葉文化ですね。

このように方言は、それぞれの言い回しや発音を通して地方ならではの特徴を表わします。ふるさとを離れて過ごす人にとっては、なつかしい昔の出来事や今の自分の心のあり様を振りかえらせる力があります。また、使う場面に応じて人の温かみや強さがあらわれることで、地方が持つ風土の奥深さや心に宿る愛郷心が発揮され多くの人々の共感を呼ぶのです。

方言は地方の個性であるばかりではなく、それが包み込む安心感や一体感が「東京の方が優れている」という経済的価値観とは対極にある「地方の豊かさ」の一つであり、地方に住む幸せ感につながるのではないかと感じながら、北海道北見の地方チームの大活躍と明るい選手たちの「そだねー」の響きにこんなことを感じながら、地方都市中津の「暮らし満足 NO.1」を目指す気持ちに新たな元気をもらいました。

